

予防会最初の普及・啓発活動 —『結核とその予防』令旨奉戴結核予防展覧会

結核予防会

理事長 工藤 翔二

昭和14(1939)年4月28日皇后陛下のご令旨を受けて、5月1日財団法人結核予防会の設立が閣議決定、5月22日寄付行為の承認によって結核予防会は設立された。誕生したばかりの結核予防会は、同年11月23日から2週間東京府立商工奨励館において「結核予防展覧会」を開催した。本小冊子はその時会場に展示した資料を抜粋して纏めたものである。この展覧会と小冊子は、「趣旨」(図1)にみるように、結核予防会が今日進めている結核予防知識の普及・啓発活動の最初の事業である。

冊子の表紙(図2)は展覧会第一会場に配置された彫刻家山本雅彦氏(文展無鑑査、後の日本美術家連盟理事長、日展参与)による塑像の写真で、見返しに「国民の結核予防生活を具現せる力強き大塑像」とある。

冊子には、「結核のまん延」、「結核の本態」、「結核の予防」、「結核の療養」、「結核予防施設」の5項目について、26頁にわたって合計53枚の図表が収載されている。これは、結核予防会設立当時の日本の結核の状況と医学的知識、そして化学療法前の予防と療養、対策に関して結核予防会がどのように理解し、国民に伝えようとしていたかを知る貴重な歴史的資料である。

そのいくつかを見てみたい。「結核のまん延」を見てみよう。

当時の結核死亡者は年間15万人(図3)、国民死因の第1位であり、患者は150万人、国民50人に1人、10戸に1人としている(図4)。結核死亡は日露戦争や関東大震災等よりも多いとするグラフもある。そして、結核が年々増加していること、青年の病気であること、府県別結核死亡、5大国(英、米、仏、独、伊)との比較、外国では減少しつつあり、青年の結核を制してむしろ老年に多いこと等は、現在の「結核の統計」の原型を見ているようで興味深い。

“国富”の損失が15億円に及び、教育上、産業上のどれほどの損失に値するかも示している。また、それが戦闘機、戦車、高射砲等の何台に相当するかの図5は、戦時体制に進みつつあった当時を反映している。

「結核の本態」では、結核が結核菌を病原とすること、空洞内で増殖して喀痰に混じって外界に散布されること、結核の感染成立とツベルクリン反応、家族内感染、集団感染、感染と発病は別、感染から発病までの期間、発病の誘因、肺結核の経過などが解説されている。感染から発病までの期間は1年以内が多いとして、特に

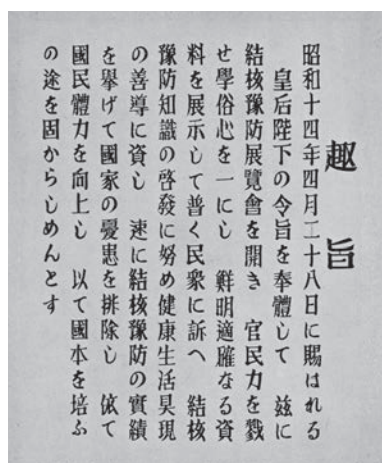


図1 趣旨

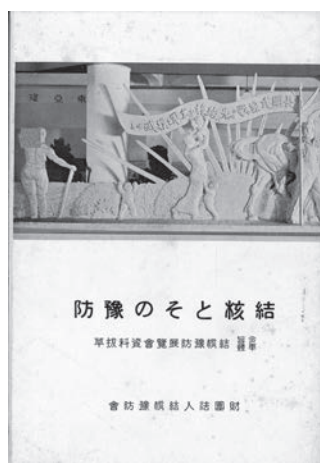


図2 「結核とその予防」表紙

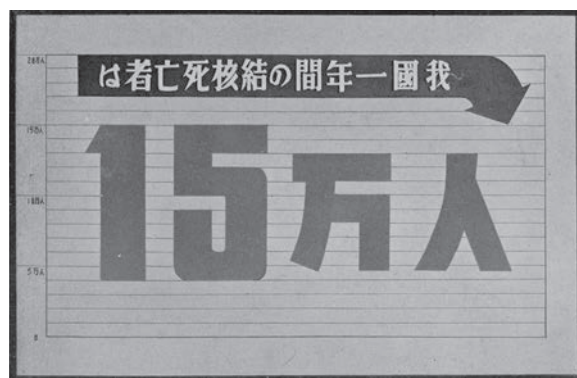


図3 「我が国一年間の結核死亡者は」

この期間の注意を促している (図6・7)。

「結核の予防」では、“家族内感染を防げ”、“伝染の源を探せ”、“公衆道徳を守れ”、“健康診断の方法”、“健康診断の結果”が、それぞれ図示されている。家族内感染防止と、今日の接触者検診、クラスター解析につながる感染源の追及の重視が見て取れる。公衆道徳では、痰は痰壺に (昔は、駅や人の集まるところには痰壺があった)、今の咳エチケットにつながる「咳をするときは布で被う」など、当時の状況がうかがわれる。

胸部レントゲン検査に始まる健康診断の推奨もこの時すでに始まっている。

「結核の療養」では10枚の図版が使われている。“結核は治る”、“初期の自覚症状は”(ほとんど破損)、“結核の征服は”に続いて、安静、大気、栄養の“療養の三原則”が記載され、“正しい療養と誤った療養”、“療養生活は規則正しく”と日課も含めて丁寧に説明している (図8・9)。

治療については、化学療法が無い中で、“肺結核の



図4 結核患者推定数

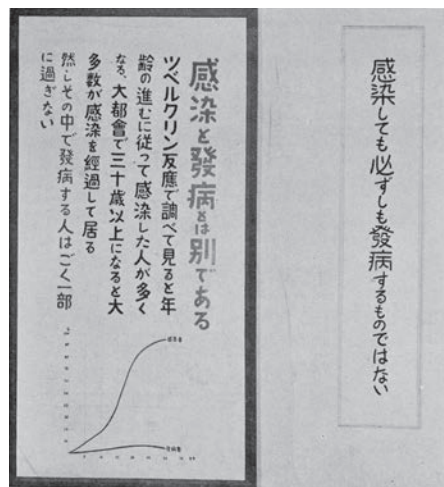


図6 「結核の本態」感染と発病とは別である



図5 国富の損失

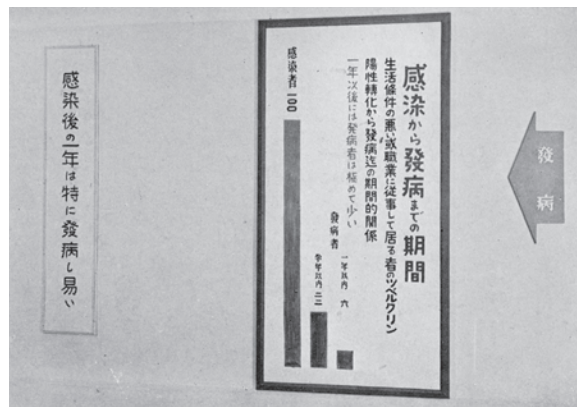


図7 「結核の本態」発病の時期

虚脱療法”，“その他の結核の療法”が記載され，“運動はおもむろに”，“正常生活への準備”と回復期の生活にも触れている。

最後の「結核予防施設」では12枚の図版が使われ，“結核予防施設体系”，“結核相談所”では，「結核予防の中心施設は健康相談所である」としている（図10）。

“療養所とは”，“回復者保養所”，“虚弱児童保養所”，“傷痍軍人療養所”で，療養所・保養所について解説し，“我が国における予防施設の現在と諸外国との比較（其

の一）”では，療養所病床数がわずか3万床であるとし，15万床が必要としている（図11）。また，“我が国における予防施設の現在と諸外国との比較（其の二）”では，健康相談所が保養所を含めてもわずか250カ所（人口100万に対して約3カ所）に過ぎないとして，人口100万に対して20カ所を必要とするとしている。終わりに，“財団法人結核予防会”で予防会の組織と事業を解説し，“結核予防都市模範地区”，“結核予防農村模範地区”という，壮大な構想を示している。

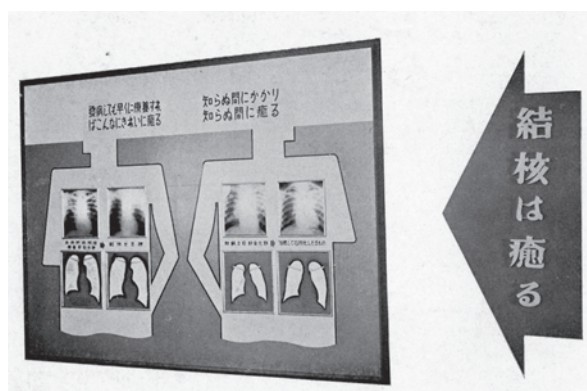


図8 結核は癒る



図10 結核予防施設体系



図9 療養の三原則

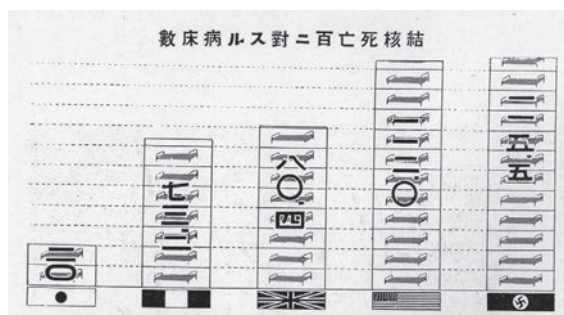


図11 結核死亡百に対する病床数